

第6 2回北海道高等学校登山選手権大会ペーパーテスト問題用紙

1 次のコース概況についての文章中()に入る適語を、下記語群より選び、記号で答えよ。

○旭岳コース

スタート地点は、東川町旭岳青少年野営場横広場(駐車場)である。スタートしたら、舗装された道を進み、広い車道を右折し、旭岳ロープウェイ方向に歩道を歩く。旭岳ビジターセンターの駐車場横より木道に入る。ここからは登山道となる。

100 m程歩くとすぐ分岐になるので、右折して(1)を目指す。登山道は所々木道があり、しばらく進むと第一(1)に着く。ここは小規模な湿原で、夏にはワタスゲやナガバノモウセンゴケなどを見ることができる。さらにアカエゾマツの森を進むと再び湿原が始まる。ここは第二(1)である。湿原を過ぎると登山道は傾斜のある登りに変わっていく。

ここから徐々に高度を上げていく。植生は針葉樹から(2)の林に変わり、登山道脇にはシラタマノキなどの低木が混ざってくる。さらに高度を上げるとハイマツも多くなり、森林限界へと近づく。登山道右手の沢は(3)と呼ばれ、小さな岩壁を伴った斜面が続く。傾斜が徐々に緩やかになると分岐も近い。標高が上がるにつれてミヤマリンドウ、アカモノなどの高山植物も見ることができる。さらに進むとあたりは高山帯の雰囲気になり、旭岳ロープウェイ姿見駅と旭岳山頂へ向かう道との分岐に出る。分岐を(4)へ進み、姿見の池を目指す。道の途中にはチングルマやエゾコザクラ、キバナシャクナゲなどを見ることができる。そして右手にはオプタテシケ山から(5)岳まで連なる十勝岳連峰を、その左には(6)山も見ることができる。

小高い丘まで登ると「愛の鐘」のある姿見展望台となり、姿見の池が目の前に現れる。丘の横には旭岳石室がある。ここからは瓦礫の斜面に一変し、植物がほとんどなくなる。斜面をひたすら登る変化のない道が続くが、振り返れば白い噴煙と姿見の池付近の火口湖群がきれいに見える。高度を上げれば(6)山の背後に日高山脈も見えてくる。

尾根上を登り続けてきたコースには、頂上の手前で岩塊が現れる。ニセ(7)岩を確認しながら、急角度に左に曲がると爆裂火口の上に出る。そして(7)岩を左手に見ながら最後の斜面を登れば旭岳の山頂である。

山頂に出ると今まで見ることのできなかった新しい眺望が広がる。黒岳や北鎮岳も見ることができる。遠くに雌阿寒岳や雄阿寒岳、そして斜里岳、羅臼岳まで見渡すことができるだろう。

下山は、旭岳石室までは来た道を下っていく。頂上直下の急斜面はザレ場で非常に滑りやすい。ニセ(7)岩から右に折れた後は爆裂火口の縁を忠実にたどって下る。

旭岳石室は登りのルートとは違う。「愛の鐘」のある姿見展望台からは、右手に旭岳を見ながら夫婦池を目指して歩いて行く。夫婦池からもいくつか分岐があるが、地図で確認しながら旭岳ロープウェイ姿見駅に向かう。姿見駅から分岐に向かい、(1)を経由して来た道を下山する。

○上ホロ・十勝岳縦走コース

出発は標高 1270 m、(8)温泉登山口。ここは道内最高所の温泉施設がある。広い駐車場の右手のやや急な舗装道路からスタートする。ナナカマドやハンノキなどの灌木が混じるハイマツの中の広く平坦な遊歩道を進むと、正面に(9)岩、その奥にハツ手岩が見えてくる。

しばらく進むと(10)山分岐(崖尾根コース)が左手にある。この崖尾根コースは落石事故のため、10 年ほど閉鎖されていたが、2020 年に復活している。分岐を過ぎてしばらくすると左手に自動観測の機械が見え、その奥に夫婦岩が見える。ハイマツが尽きた先で右手の涸れた沢、(11)川に下り、これを渡る。

対岸の斜面に取り付き、いったん下流方向へ折り返すように斜めに登り尾根を南側に回り込んで稜線に向かう。この尾根は(12)尾根と呼ばれている。尾根に出ると視界が開け、(5)岳から三峰山の稜線が一望できる。岩がごろごろした沢地形を渡ると(5)岳との分岐、上ホロ分岐である。

分岐を(13)上に歩いてしばらく笹地を行き、浅い沢地形を歩くと木段が迫ってくる。通称「三百階段」の急登だ。登り詰めると(12)尾根の上部である。砂礫と背の低いハイマツの尾根で、(14)、エゾイソツツジ、エゾノツガザクラなどの花を楽しむことができる。眼下に爆裂火口である安政火口、西に(5)岳の勇姿を見ながらの登山となる。左手のハツ手岩を過ぎ、右に曲がって最後の急登を登ると主稜線に出る。ここは強風が吹き荒れることが多く、先へ進むことができるかどうか、適切な天候判断をしなければならない場所だ。ここから右へは三峰山、(5)岳へのルートとなるが、左へ行くと、ほんの 30 秒ほどで上富良野岳へ到着する。

ここからいったん分岐へ戻ってからイワヒゲ、ミネズオウ、メアカンキンバイなどの背の低いお花畑の斜面を下り、コルから 50m ほど登り返すと上ホロカメットク山山頂である。

上ホロカメットク山は夏冬通して登られており、頂上直下には中央壁と呼ばれる絶壁が続き、ハツ手岩や(9)岩とともに冬期登攀のコースになっている。

山頂からいったんコルに戻り、上ホロカメットク山を迂回するルートを歩いて上ホロカメットク山避難小屋に到着する。避難小屋は2階建てで、水場は通ってきたルート上の雪解け水を利用する。

避難小屋から1分ほど歩いて主稜線に入り、十勝岳を目指す。西側が切れ落ち、東側には緩い稜線が続く。東山麓の森は原生林である。ハイマツが所々稜線に迫ってくるほか、メアカンキンバイが咲くぐらいで、植物は少ない。崖側は崩れやすいので、視界がないときは、

安易に近づかないようにしたい。

白茶けた火山灰地が露出し火山らしい稜線になってくると標高 1870 mの(15)岩分岐である。ここから(10)山への道が分かれるが、途中で崩壊し、現在は通行止めとなっており、杭とロープで仕切られている。分岐から十勝岳までは約 1 時間。背後には歩いてきた稜線が波打って続き、(5)岳の緑色の山肌が際立つ。通称(16)と呼ばれる 1921 mのコブを超えると登山道は火山礫で歩きにくくなる。

たどり着いた 2077 mの十勝岳には、(17)が飛び交い、山頂から先にも美瑛岳への褐色の稜線が続いている。さらにその先には(6)山が望まれる。富良野盆地も一望でき、丘陵の奥にある芦別岳の鋭い稜線が目を引き。また、南方には日高山脈も遠望できる。

十勝岳から望岳台への下りは、肩から急斜面となり足場が悪いので注意しよう。踏み跡がいくつもあり、浮き石も多いので、落石に注意して歩こう。急斜面を下ると(18)火口とスリバチ火口の間の砂礫の稜線を進む。

風向きによっては現在も活動している(19)火口や大正火口などからの火山ガスや噴煙が届くので注意が必要だ。いったん緩んだ登山道も 1730 mからまた急な下りとなる。ザレ場の下りなのでスリップや転倒に注意しよう。

尾根を離れ、涸れ沢を渡り、右に曲がると標高 1330.2 mの十勝岳避難小屋である。小屋から少し下ると(20)分岐となり、右に行くとポンピ沢を経て、美瑛岳に至るルートとなる。

さらに泥流の跡を下ると泥流分岐である。さらに下ると望岳台に到着する。今回は左に進み、白銀荘分岐から九条武子歌碑を経て、吹上温泉白銀荘登山口へと下山する。

【語群】	ア、三段	イ、馬の背	ウ、天女ヶ原	エ、D	オ、イワブクロ	カ、グラウンド
	キ、金庫	ク、ヌッカクシ富良野	ケ、十勝岳	コ、トムラウシ	サ、大砲	
	シ、62-II	ス、富良野	セ、盤の沢	リ、イワツバメ	タ、右	チ、雲ノ平
	ツ、ダケカンバ	テ、化物	ト、左			

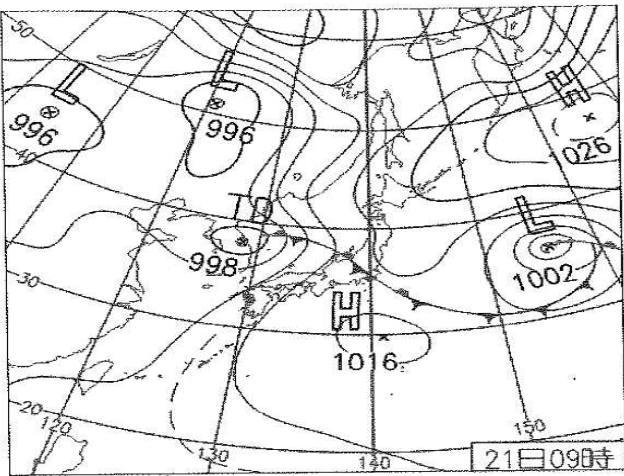
2 次の大雪山の動物・植物に関する各文章を読んで、内容が正しいものには○、誤っているものには×を記せ。

- ① 大雪山国立公園の動物では氷河期の遺存種として知られるナキウサギやウスバキチョウなど広々とした高山帯(1600 m以上)に生息する動物が有名である。
- ② 北海道には 44 種の陸生哺乳動物が生息していたが、エゾオオカミとニホンカワウソは現在も生息している。
- ③ 亜高山帯において、ダケカンバ林下部の針葉樹林帯から針広混合林には、エゾクロテン、エゾユキウサギ、エゾモモンガなど森林性の種を中心に約 30 種の哺乳動物が生息している。
- ④ 高山帯において、ハイマツ帯や高山草原ではノゴマやビンズイ、カヤクグリなどが代表的で、ハイマツなどの種子を食べるホシガラスも特徴的である。

- ⑤ 旭川地方では爬虫類アオダイショウ、両生類ではエゾアカガエルが生息している。
- ⑥ 最も一般的な高山植物であるチングルマの開花は、大雪山では 6 月中旬に始まるが、雪解けの遅い場所では 8 月中旬にようやく咲く。
- ⑦ 高山生態系は、強風のためにほとんど雪が積もらない「風衝地」と呼ばれる立地と、雪が夏まで残る「雪田」と呼ばれる立地に分けられる。高山植物の女王と呼ばれるコマクサは雪田植物である。
- ⑧ ハイマツは日本の高山帯を特徴づける植物でる。本州中部山岳域のハイマツに比べ、北海道の高山帯のハイマツは幹が細い。
- ⑨ 地球温暖化の影響は植生変化の進行に関係がない。

3 次の文中()において、最も適切な語を選び、記号で答えよ。

5 月から 7 月にかけて、日本付近では太平洋上の(① ア：温暖・湿潤、イ：温暖・乾燥、ウ：寒冷・湿潤、エ：寒冷・乾燥)の性質を持つ気団と、日本以北からのびる(② ア：温暖・湿潤、イ：温暖・乾燥、ウ：寒冷・湿潤、エ、寒冷・乾燥)の性質を持つ気団のせめぎ合いがおきる。その結果、日本列島を横切ってこれらの 2 つの気団の境界である梅雨前線が形成される。この境界上には(③ ア：高気圧、イ、温帯低気圧、ウ：熱帯低気圧)が頻繁に発生し、約 1 か月半にわたって多くの雨をもたらす。この前線は(④ ア：低緯度から高緯度、イ：高緯度から低緯度)に移動する。梅雨が明けると、太平洋高気圧が西に勢力を伸ばして日本列島を襲うようになり、暑苦しい日々が続くようになる。図の天気図は、令和元年 7 月 21 日のものである。この日、熱帯低気圧が温帯低気圧にかわり、(⑤ ア：日本のはるか東、イ：日本の南、ウ：東シナ海、エ、日本海)に入ったことで、梅雨前線が北陸地方に到来し、気温が上がった。



雷は、激しい(⑥ ア：上昇、イ：下降、ウ：ジェット)気流が主な原因となり、特に夏の(⑦ ア：午前、イ：午後、ウ：深夜)、山間部に発生しやすい。

4 傷病者への初期対応について、あとの問いに答えよ。

(1) 初期対応の「3 S A B C D E」のうちの「3 S」について正しく述べたものを、次のア～オから3つ選び、記号で答えよ。

ア Sは SAFETY で、現場の安全を確認したり、感染を防ぐために安全を確保することを意味している。

イ Sは SCHEDULE で、傷病者への対応にあたってどのように予定を組むかを初めに計画することを意味している。

ウ Sは STOMACH で、腹部の動きが正常かを確認し、安静にするために腹部を固定することを意味している。

エ Sは SPINE で、頭・首・体の軸をまっすぐにし、脊椎の動き幅をできるだけ小さくすることを意味している。

オ Sは SCENE で、何が起きているのかや現在の時刻、自分で手に負えるかといった状況を確認することを意味している。

(2) 初期対応の「3 S A B C D E」のうちの「A」と「B」が意味していることを次のア～オのうちから1つずつ選び、記号で答えよ。

ア 循環 イ 暴露または環境 ウ 呼吸 エ 気道 オ 身体障害、意識

(3) 山中で倒れている人を発見し、以下のような行為を行った。「3 S A B C D E」の観点から以下の問に答えよ。

① 次のア～ウの中で、まず最初に行うべきことを1つ選び、記号で答えよ。

ア 傷病者に、ツェルトをかける。

イ 発見した位置で頭を保持し、『どうしましたか』と声をかける。

ウ 口の中に異物がないか確認する。

② 「C」にあたる行為を次のア～ウの中から選び、記号で答えよ。

ア 顔の表情を見て、頭から足先まで触って、痛み・腫れ・変形がないか確認した。

イ 呼吸を普通にしているかどうかを確かめた。

ウ 脈をとり、手のひらを触る。また、出血がないか確認した。

5 以下の各問に答えよ。

(1) 次の文中(①)～(④)に入る最も適切な語句を選び、記号で答えよ。

旭岳で登山を実施した。山頂へ向かう途中の9合目あたりで冷たい雨が降り出した。小休止をした9合目では、風に直接あたってしまう状況だった。この時Aさんが、ひどく「震え」ていたので、(① ア：凍傷、イ：低体温症)、もしくはそのなりかけを疑い、まず、ツェルトで風と雨をできるだけ避ける処置をした。続いて(② ア：意識、イ：血圧)と(③ ア：脈と呼吸、イ：痛み)を観察した。どちらも正常と認めたので、持参していたカステラを与えた。しばらくして、体が(④ ア：暖まり、イ：冷やされ)元気が出てきたので

歩いて下山をすることにした。

(2) 文章中の下線部について、この処置をなんというか。次のア～ウの中から答えよ。

ア 固定 イ 隔離 ウ 加温

6 次の登山用語の意味を、下のア～キの中から答えよ。

(1) トラバース

(2) リングワンデリング

【意味】

ア ブッシュをかき分けながら進むこと。

イ 荷物を一時置いておくこと。冬山用の食糧などを雪が無いうちに運び上げ、山小屋などに保管しておくこと。

ウ 山腹・岩壁を横切ること。

エ 雪原や原において、吹雪や濃霧のため方向を見失い、目的地に進んでいるつもりが元の場所に戻ってしてしまうこと。

オ 吹雪や濃霧で視界がまったく効かなくなり、地面と空との境界もわからなくなってしまう状態。

カ 川や沢を対岸に渡ること。

キ テントを用いなくて、ツェルトや岩陰などを利用し野宿すること。